【　専門基礎分野　人体の構造と機能　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
解剖総論	1	15 時間（8 回）	1 年次・前期	中村　直晶

学習目標	1．人体の構造と機能をそれぞれ関連づけて理解することができる
DPとの関連	□1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1．解剖、生理学とは ・解剖学 ・生理学 ・解剖生理学と看護	講義	5 回	5．体内の膜 ・漿膜 ・粘膜 ・結合組織の膜	講義
2 回	2．解剖生理学用語 ・解剖生理学的正常位 ・方向 ・面と断面 ・人体の部位を表す用語 ・人体内部の腔所 ・器官と 11 種類の器官系	講義	6 回	6．皮膚 ・皮膚の構造 ・皮膚の機能 ・皮膚の付属器	講義
3 回	3．細胞とは ・細胞の構造 ・細胞の機能	講義	7 回	7．体熱産生と体温 ・体温の分布 ・熱の出納 ・体温調節	講義
4 回	4．人体を構成する 4 種の組織 ・上皮組織・支持組織 ・筋組織　・神経組織	講義	8 回	8．眼で見る医学の基礎 ・細胞、遺伝子 終講試験	講義 試験

評価方法	筆記試験　100 点	教科書	ﾅｰｼﾝｸﾞｸﾞﾗﾌｨｶ　人体の構造と機能① 解剖生理学　（ﾒﾃﾞｨｶ出版）

【　専門基礎分野　人体の構造と機能　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
解剖生理学Ⅰ	1	15 時間（8 回） ①　4 時間（2 回） ②　6 時間（3 回） ③　4 時間（2 回）	1 年次・前期	①　藤原　正美（血液系） ②　小林　謙太（循環器系） ③　井口　秀　（呼吸器系）

学習目標	1．人体の構造と機能をそれぞれに関連付けて理解することができる
DPとの関連	□1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 （藤原）	1．血液成分と機能 1）血液とは 2）血液の働きと成分	講義		4．リンパ系 1）リンパ管、リンパ 2）リンパ節、胸管 3）リンパ性器官	
2 回 （藤原）	2．血球とその機能 1）赤血球、白血球 2）血小板と血液凝固および血栓の線溶 3．血液型と輸血 1）ABO 型血液型 2）Rh 式血液型 3）輸血の交差適合試験	講義	6 回 （井口）	5．呼吸器系構造と機能 1）呼吸器系の役割 2）鼻と鼻腔 3）咽頭、喉頭 4）気管と主気管支 5）肺	講義
3 回 （小林）	1．心臓 1）心臓の構造と機能	講義	7 回 （井口）	6．呼吸のプロセス 1）換気、外呼吸 2）ガスの運搬 3）内呼吸	講義
4 回 （小林）	2．血管と循環 1）主要な動脈 2）主要な静脈と門脈 3）胎児循環 4）血管の機能	講義		7．呼吸の調節 1）化学受容体と呼吸器系の受容器 2）呼吸中枢 3）呼吸の様々な異常	講義
5 回 （小林）	3．心臓、血管の成長と老化	講義	8 回	終講試験	試験

評価方法	筆記試験　100 点 （　①30 点　②40 点　③30 点　）	教科書	ﾅｰｼﾝｸﾞｸﾞﾗﾌｨｶ　人体の構造と機能① 解剖生理学　（ﾒﾃﾞｨｶ出版）

【　専門基礎分野　人体の構造と機能　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
解剖生理学Ⅱ	1	15 時間（8 回） ①　6 時間（3 回） ②　4 時間（2 回） ③　4 時間（2 回）	1 年次・前期	①　操野　由美子（消化器系） ②　辻本　幸代　（泌尿器系） ③　谷口　真奈美（内分泌系）

学習目標	1．人体の構造と機能をそれぞれに関連付けて理解することができる
DPとの関連	□1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 （操野）	1）食欲と摂食行動、調節 2）口腔の構造と機能 3）歯、咀嚼 1）咽頭の構造と機能 2）食道の構造と機能 3）嚥下	講義	5 回 （辻本）	1）尿管 2）膀胱 3）尿道 1）排尿の整理 ・畜尿 ・排尿 ・骨盤底筋群の役割	講義
2 回 （操野）	1）胃、小腸、肝臓の構造と機能 2）胆嚢、膵臓の構造と機能 1）吸収 ・糖質、脂肪、タンパク質、ビタミン、水	講義	6 回 （谷口）	1）ホルモンの化学物質と作用 1）視床下部、下垂体 松果体	講義
3 回 （操野）	1）排泄 ・大腸の構造と機能 ・排便の機序	講義	7 回 （谷口）	2）甲状腺、上皮小体 1）膵臓のはたらき ・膵島、血糖の調節 ・糖尿病 ・副腎皮質、副腎髄質	講義
4 回 （辻本）	1）腎臓の構造と機能 2）尿の成分 3）血液成分の調整	講義	8 回	1）卵巣、精巣 2）内分泌系の成長と老化 終講試験	講義 試験

評価方法	筆記試験　100 点 （　①40 点　②　30 点　③30 点　）	教科書	ﾅｰｼﾝｸﾞｸﾞﾗﾌｨｶ　人体の構造と機能① 解剖生理学　（ﾒﾃﾞｨｶ出版）

【　専門基礎分野　人体の構造と機能　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
解剖生理学Ⅲ	1	15 時間（8 回） ①　8 時間（4 回） ②　6 時間（3 回）	1 年次・後期	①　松野　友佳子（脳神経系） ②　中野　裕葵 （骨・関節・筋系）

学習目標	1．人体の構造と機能をそれぞれに関連付けて理解することができる
DPとの関連	□1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 （松野）	1．神経系の分類 1）構造に基づく分類 2）機能に基づく分類 1）神経膠細胞 2）ニューロン 3）体制感覚の受容器 4）反射	講義	6 回 （中野）	2）骨の構造と、成長 2．頭蓋、体幹の骨格 1）頭蓋、脊柱、胸郭 3．体肢の骨格 1）上肢、骨盤、下肢 4．関節の構造と種類 1）関節の変形	講義
2 回 （松野）	2．中枢神経系 1）大脳、間脳、脳幹 小脳、脊髄 2）中枢神経系を保護する組織、伝導路	講義	7 回 （中野）	5．筋の種類 1）骨格筋、心筋、平滑筋 6．筋の機能 1）筋の収縮機序 2）筋収縮の種類 3）脊髄反射と運動単位	講義
3 回 （松野）	3．末梢神経系 1）末梢神経の構造 2）体性神経系 3）自律神経系	講義		7．身体の運動と骨格筋 8．骨格筋の解剖生理 1）頭部の筋、頸部、背部の筋、胸部の筋	
4 回 （松野）	4．生体のリズム 1）睡眠と覚醒 2）ｻｰｶﾃﾞｨｱﾝﾘｽﾞﾑ	講義		2）横隔膜、腹部の筋 3）上肢の筋、下肢の筋、筋の病気	講義
5 回 （中野）	1．骨と骨格 1）骨の働き、組成	講義	8 回	終講試験	試験

評価方法	筆記試験　100 点 （　①50 点　　②50 点　）	教科書	ﾅｰｼﾝｸﾞｸﾞﾗﾌｨｶ　人体の構造と機能① 解剖生理学　（ﾒﾃﾞｨｶ出版）

【　専門基礎分野　人体の構造と機能　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
解剖生理学Ⅳ	1	15 時間（8 回） ①　6 時間（3 回） ②　4 時間（2 回） ③　4 時間（2 回）	1 年次・後期	①　藤原　正美（生殖器系） ②　川野　志延（感覚器系） ③　橋本　裕子（免疫系）

学習目標	1．人体の構造と機能をそれぞれに関連付けて理解することができる
DPとの関連	□1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 （児玉）	1．女性生殖器の構造 1）卵巣 2）卵管、子宮、膣 3）外陰部、会陰の構造 4）性周期、	講義	5 回 （川野）	3）網膜、視神経 5．聴覚と平行覚 1）外耳、中耳、内耳 2）聴力、平行覚 6．化学的感覚 1）嗅覚と嗅覚受容器 2）味覚と味蕾 3）皮膚感覚、深部感覚 4）体性感覚と内臓感覚	講義
2 回 （児玉）	5）妊娠、分娩、産褥 4）乳房、乳腺 2．男性生殖器の構造 1）精巣と精路	講義	6 回 （橋本）	7．免疫系の大まかな仕組み 1）自然免疫系と獲得免疫系	講義
3 回 （児玉）	2）精子の形成 3）精巣上体、精管 精嚢、前立腺、陰茎 4）受精と着床	講義	7 回 （橋本）	2）抗原特異性 3）抗原と抗体 3）抗体の産生と働き 4）免疫系と感染症	講義
4 回 （川野）	3．感覚の特徴 1）感覚と反応 2）五感とは 4．眼球の構造と機能 1）眼球の血管、付属器 2）視野と視力	講義		5）アレルギー 6）自己免疫性疾患	講義
			8 回	終講試験	試験

評価方法	筆記試験　100 点 （　①40 点　②30 点　③30 点　）	教科書	ﾅｰｼﾝｸﾞｸﾞﾗﾌｨｶ　人体の構造と機能① 解剖生理学　（ﾒﾃﾞｨｶ出版）

【　　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進　　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
生化学	1	15 時間（8 回）	1 年次・前期	中村　允之

学習目標	1．人体の構造と機能をそれぞれに関連付けて理解することができる
DPとの関連	□1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 □6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1．生化学を学ぶための基礎知識 1）生化学とは 2）細胞の構造と機能	講義		4．脂質の構造と機能 1）脂質とは 2）脂質の種類 3）脂質の消化と吸収 4）脂肪酸の分解 5）脂質の合成	講義
2 回	2．代謝と生体のｴﾈﾙｷﾞｰ 1）三大栄養素の代謝の概要 2）酵素の基礎知識 3）ビタミンとは 4）糖質とは 5）単糖、二糖、多糖	講義	6 回	5．タンパク質代謝 1）タンパク質とは 2）アミノ酸 6，ポルフィリン代謝と異物代謝	講義
3 回 4 回 5 回	3．糖質の消化と吸収 1）グルコースの分解 ・解糖系 ・ピルビン酸からアセチル CoA への変換 ・クエン酸回路 ・電子伝達系 2）グリコーゲン代謝 3）ﾍﾟﾝﾄｰｽﾘﾝ酸経路 4）ｶﾞﾗｸﾄｰｽ、ﾏﾝﾉｰｽ ﾌﾙｸﾄｰｽの分解	講義 講義 講義	7 回 8 回	7．遺伝子と核酸 1）DNA の複製 2）DNA の組み換え 3）転写 終講試験	講義 試験

評価方法	筆記試験　100 点	教科書	系統看護学講座　専門基礎分野 生化学　（医学書院）

【　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
代謝栄養学	1	15 時間（8 回）	1 年次・前期	徳永　祐子

学習目標	1．栄養のメカニズムが理解できる 2．病態に応じた栄養について理解できる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 □6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1．栄養を学ぶということ 1）栄養とは 2）栄養の歴史 3）看護と栄養 2．栄養素の種類と働き 3．エネルギー代謝 1）エネルギー消費 2）基礎代謝量	講義	5 回	8．臨床栄養 1）チームで取り組む栄養管理 2）病院食、特別食 3）栄養補給法	講義
			6 回	9．疾患・症状別食事療法	講義
			7 回	10．治療食の実際 1）献立 2）調理 3）食事	講義・演習
2 回	4．食事と食品 1）食事摂取基準 2）食品群と栄養素 5．栄養ケア・マネジメント	講義	8 回	終講試験	試験
3 回	6．栄養状態の評価・判定	講義			
4 回	7．ライフステージと栄養 1）乳幼児期、幼児期 2）学童期 3）思春期、青年期 4）成人期 5）妊娠期、授乳期 6）更年期 7）高齢期	講義			

評価方法	筆記試験　100 点	教科書	系統看護学講座　専門基礎分野 栄養学　（医学書院）

【　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
微生物学	1	30 時間（15 回）	1 年次・前期	櫛引　千恵子

学習目標	1．疾病の成り立ちに影響を及ぼす微生物の種類とそれぞれの特性が理解できる 2．各感染症に対する治療と看護の基本が理解できる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 □6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1．微生物と微生物学 1）微生物の性質 2）微生物と人間	講義	8 回	2）感染症の問題点 3）感染症への対策	講義
2 回	2．細菌、真菌、原虫、ウィルスの性質 1）感染と感染症	講義	9 回	9．病原細菌と細菌感染症 1）グラム陽性球菌 2）グラム陰性球菌 3）グラム陰性好気性桿菌	講義
3 回	3．感染に対する生体防御機構 1）感染の成立から発症・治癒まで	講義	10 回	4）グラム陰性通性桿菌	講義
			11 回	5）カンピロバクター属	講義
			12 回	6）グラム陽性桿菌	講義
4 回	4．感染に対する生体防御機構 1）自然免疫と獲得免疫 2）抗原と抗原特異的免疫 3）感染源、感染経路からみた感染症	講義		7）抗酸菌と放散菌 8）嫌気性菌 9）スピロヘータ 10）マイコプラズマ 11）リケッチア目 12）クラミジア科	
5 回	5．滅菌と消毒 6．感染症の検査と診断	講義	13 回	10．病原真菌と真菌感染症	講義
			14 回	11．病原原虫と原虫感染症	講義
6 回	7．感染症の治療 1）化学療法の基礎	講義		12．病原ウィルスとウィルス感染症	講義
7 回	8．感染症の現状と対策 1）感染症の変遷と現状	講義	15 回	まとめ　終講試験	試験

評価方法	筆記試験　100 点	教科書	系統看護学講座　専門基礎分野 微生物学　（医学書院）

【　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
薬理学	1	30 時間（15 回）	1 年次・後期	中谷　孝史

学習目標	1．健康回復に関する薬物の作用が理解できる 2．各薬物に応じた管理について理解できる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 □4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1．薬理学とは	講義	8 回	7．呼吸器系作用薬	講義
	2．薬に関する基礎知識			1）気管支系治療薬	
2 回	3．生体機能と薬	講義	9 回	8．消化器系作用薬	講義
	1）薬の体内運命と薬効			1）消化性潰瘍治療薬	
	2）生体の調節機能と薬物		10 回	2）健胃消化薬	講義
3 回	4．末梢神経作用薬	講義		3）胃腸機能調整	
	1）自立神経作用薬			4）腸疾患に作用する薬	
	2）筋弛緩、局所麻酔薬			5）肝、胆道、膵臓治療薬、制吐・催吐薬	
4 回	5．中枢神経作用薬	講義			
5 回	1）全身麻酔、催眠薬	講義	11 回	9．内分泌・代謝系作用薬	講義
	2）麻薬及び類似薬			1）ホルモン製剤	
	3）抗てんかん薬			2）骨・カルシウム	
	4）パーキンソン治療薬			3）糖尿病、脂質異常	
	5）抗認知症薬、向精神薬			4）高尿酸血症	
6 回	6．心・血管系作用薬	講義	12 回	10．抗感染症薬	講義
7 回	1）降圧薬、抗不整脈薬	講義	13 回	11．抗腫瘍薬（抗がん剤）	講義
	2）抗狭心症薬、強心薬		14 回	12．抗炎症薬、解熱鎮痛薬	講義
	3）利尿薬、末梢血管拡張薬			13．抗アレルギー薬	
				14．救急薬品	
	4）造血薬、抗血栓薬			15．漢方薬	講義
	5）止血薬、血液製剤			16．ビタミン製剤	
			15 回	まとめ　終講試験	

評価方法	筆記試験　100 点	教科書	新体系看護学全書　　薬理学 （メジカルフレンド社）

【　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
リハビリテーション論	1	15 時間（7 回）	2 年次・後期	前　宏樹

学習目標	1．リハビリテーションや障害の概念、障害者にかかわる制度とリハビリテーション医療の提供システムについて理解できる 2．障害をかかえる人々の生活の質を高めるためのリハビリテーションについて理解できる 3．障害者や家族の心理、セルフケアへの援助，リスク社会参加への援助について理解できる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回	●リハビリテーション総論 1）　リハビリテーションの定義と理念 2）　疾病と障害 3）　リハビリテーションに関わる専門職 4）　多職種連携 ●疾患別リハビリテーション 1）各疾患から起こる障害の理解 2）リハビリテーション専門職の具体的アプローチ 3）看護師との連携 4）社会復帰に向けた目標共有とアプローチ	講義	7回	6.　生活と地域（訪問リハ）	講義
2回	1.　中枢神経系疾患	講義	8回	●終講試験	試験
3回	2.　運動器系疾患	講義			
4回	3.　廃用性、がん疾患	講義			
5回	4.　呼吸器系疾患	講義			
6回	5.　心臓循環器系疾患	講義			

評価方法	筆記試験　　100 点	教科書	系統看護学講座　別巻 リハビリテーション看護（医学書院）

【　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
病態治療論Ⅰ	1	30 時間（15 回） ① 4 時間（2 回） ② 4 時間（2 回） ③ 6 時間（3 回） ④ 10 時間（5 回） ⑤ 4 時間（2 回）	2 年次・前期	① 高橋　憲一（呼吸器内科） ② 岩嶋　大介（呼吸器内科） ③ 松本　和也（呼吸器外科） ④ 柿原　隼　（循環器内科） ⑤ 平松　範彦 （心臓血管外科）

学習目標	1．系統別代表疾患の病態生理が理解できる 2．系統別代表疾患の診断・治療処置について理解できる
DPとの関連	□1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 （高橋）	1．呼吸器疾患の主な症状 1）咳嗽、血痰、喀血	講義		2）浮腫、チアノーゼ 3）めまい、失神、ｼｮｯｸ	講義
2 回 （高橋）	2）胸痛、呼吸困難 3）チアノーゼ、発熱 2．検査と治療、処置 1）胸水、気管支鏡	講義	9 回 （柿原） 10 回 （柿原）	2．検査と治療 1）心電図、胸部 X 線 2）心エコー、脈波 3）心臓カテーテル	講義 講義
3 回 （岩嶋）	2）酸素療法、胸腔ﾄﾞﾚﾅｰｼﾞ 3．疾患の理解	講義	11 回 （柿原）	3．内科的治療と疾患の理解 1）虚血性心疾患	講義
4 回 （岩嶋）	1）感染症、間質性肺炎 2）気管支喘息、COPD 3）呼吸不全	講義	12 回 （柿原）	2）PCI 3）心不全、弁膜症、不整脈 4）心筋疾患、動脈・静脈・リンパ系疾患	講義 講義
5 回 （松本）	4．呼吸器外科の疾患 1）肺腫瘍（良性、悪性）	講義	13 回 （平松）	終講試験	
6 回 （松本）	2）肺、肺血管の異常 3）胸膜、縦隔、横隔膜の疾患	講義	14 回 （平松）	4．心臓血管外科の疾患と治療 1）CABG、弁膜症 2）人工心肺、IABP	講義 講義・試験
7 回 （松本）	4）肺移植、胸部外傷	講義		3）心臓手術の周手術管理 4）大血管再建術	
8 回 （柿原）	1．循環器疾患の主な症状 1）胸痛、動悸、呼吸困難	講義	15 回	まとめ・終講試験	

評価方法	筆記試験　100 点満点 （　①15 点　②15 点　③20 点 ④35 点　⑤15 点　）	教科書	系統看護学講座 成人看護学［2］呼吸器 ［3］循環器　（医学書院）

【　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
病態治療論Ⅱ	1	30 時間（15 回） ①　10 時間(5 回) ②　10 時間(5 回) ③　8 時間（4 回）	2 年次・前期	①　渡邊　文督(血液･造血器) ②　脇田　重明（運動器系） ③　中道　　仁　（内分泌系）

学習目標	１．系統別代表疾患の病態生理が理解できる ２．系統別代表疾患の診断・治療処置について理解できる
DPとの関連	□1)多様な文化･価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2)看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3)自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4)健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5)身につけた知識を活用し得られた情報を科学的･論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6)健康･医療･福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携･協働において、すべての人々の健康の保持･増進･予防を考慮した看護が実践できる。 □7)専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 (渡邊)	1．血液の成分と機能	講義	9 回 (脇田)	6．検査と治療 1）関節鏡、ギプス、ブロック、手術、義肢	講義
2 回 (渡邊)	2．検査・診断と症候、病態生理 1）貧血、出血傾向、発熱	講義	10 回 (脇田)	7．疾患の理解 1）骨折、脱臼、捻挫、打撲、神経損傷、先天性疾患、骨腫瘍、腱、神経・筋疾患、脊柱の疾患	講義
3 回 (渡邊)	2）末梢血、骨髄穿刺 3．疾患と治療の理解	講義			
4 回 (渡邊)	1）鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血	講義			
5 回 (渡邊)	2）造血器腫瘍、急性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病、成人 T 細胞白血病リンパ腫、出血性疾患、DIC	講義	11 回 (中道)	8．内分泌器官の構造と機能、ホルモンの機能	講義
			12 回 (中道)	9．症状とその病態生理 1）体重変化、身長異常 2）内分泌、代謝疾患の検査	講義
			13 回 (中道)	10．疾患の理解 1）内分泌、視床下部－下垂体後葉系疾患	講義
6 回 (脇田)	4．運動器の構造と機能 1）骨、関節、神経、筋肉、腱、靭帯	講義	14 回 (中道)	2）甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺、糖尿病、脂質異常症、ﾒﾀﾞﾎﾞﾘｯｸｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ	講義
7 回 (脇田)	5．症状とその病態生理 1）疼痛、形態異常、神経障害、跛行	講義			
8 回 (脇田)					
			15 回	まとめ　終講試験	試験

評価方法	筆記試験　　100 点 （　①35 点　②　35 点　③30 点　）	教科書	系統看護学講座　成人看護学 ［4］血液・造血器　［6］内分泌・代謝 ［10］運動器　（医学書院）

【　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
病態治療論Ⅲ	1	30 時間（15 回） ①　4 時間（2 回） ②　4 時間（2 回） ③　6 時間（3 回） ④　10 時間（5 回） ⑤　4 時間（2 回）	2 年次・前期	①　福永　豊和（消化器内科） ②　高谷　晴夫（消化器内科） ③　高木　秀和（消化器外科） ④　川上　理　（脳神経系） ⑤　谷坂　恵　（脳神経系）

学習目標	1．系統別代表疾患の病態生理が理解できる 2．系統別代表疾患の診断・治療処置について理解できる
DPとの関連	□1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 （福永）	1．消化器の構造と機能 2．主な症状とその病態生理	講義	8 回 （川上）	1．脳神経系の構造と機能 2．症状と病態生理	講義
2 回 （福永）	1）嚥下困難、おくび、胸やけ、吐き気、嘔吐、腹痛、下血、下痢、便秘 2）腹部膨満、腹水、黄疸	講義	9 回 （川上） 10 回 （川上）	1）意識障害、高次機能障害、運動機能障害、感覚機能障害、頭蓋内圧亢進症状、脳ヘルニア、髄膜刺激症状	講義 講義
3 回 （高谷）	3．検査と治療 1）肝機能検査、糞便	講義	11 回 （川上）	3．検査、診断、治療、処置 1）神経学的検査、電気生理学検査、脳脊髄液検査、生検	講義
4 回 （高谷）	2）超音波、内視鏡検査 4．疾患の理解 1）食道、胃・十二指腸 2）腸の疾患 3）肝臓、胆嚢、膵臓	講義	12 回 （川上） 13 回 （谷坂）	2）外科的、内科的治療法 4．主な疾患 1）脳血管障害、脳腫瘍	講義
5 回 （高木）	1．消化器科の手術が必要な疾患	講義	14 回 （谷坂）	2）頭部外傷、脊髄疾患 3）末梢神経障害、脱髄・変性疾患、脳・神経の感染、認知症、てんかん	講義
6 回 （高木） 7 回 （高木）	1）食道、胃の疾患 2）腸管の疾患 3）肝臓、胆嚢、膵臓 4）化学療法、放射線療法	講義 講義	15 回	まとめ・終講試験	講義・試験
評価方法	筆記試験　100 点 （　①15 点　②15 点　③20 点 ④35 点　⑤15 点　）		教科書	系統看護学講座 成人看護学［5］消化器 ［7］脳・神経（医学書院）	

【　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
病態治療論Ⅳ	1	30 時間（15 回） ①　10 時間(5 回) ②　 8 時間(4 回) ③　10 時間(5 回)	2 年次・前期	①　根木　茂雄（腎泌尿器系） ②　松本　佳也（女性生殖器系） ③　瀬戸　嗣朗（アレルギー系）

学習目標	１．系統別代表疾患の病態生理が理解できる ２．系統別代表疾患の診断・治療処置について理解できる
DPとの関連	1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 (根木)	1．腎・泌尿器の構造と機能 2．症状とその病態生理	講義	8 回 (松本)	3）外陰部掻痒感、不定愁訴 3．診察・検査と治療処置	講義
2 回 (根木)	1）尿の異常、排尿に関連した症状、浮腫、脱水	講義	9 回 (松本)	1）診察治療器具 2）病理検査、内視鏡検査	講義
3 回 (根木)	尿毒症、疼痛、腫脹 3．検査と治療・処置 1）尿、腎機能検査	講義 講義	10 回 (瀬戸)	3）穿刺、レーザー、手術 4）薬物、ホルモン療法 1．免疫の仕組みとｱﾚﾙｷﾞｰ	講義
4 回 (根木)	2）経尿道的内視鏡検査 3）尿流動態検査	講義	11 回 (瀬戸)	2．診断、検査と治療 1）皮膚テスト、薬物療法	講義
5 回 (根木)	4）腎・泌尿器がんの治療 5）排尿管理、透析療法	講義	12 回 (瀬戸)	3．症状と疾患の理解 1）アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、食物アレルギー、アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎、化学物質過敏症	講義
6 回 (松本)	6）腎移植、腎不全 7）尿路・性器感染症 8）損傷、異物、腫瘍 9）尿路結石、水腎症 1．女性生殖器の構造と機能	講義	13 回 (瀬戸) 14 回 (瀬戸)	4．膠原病とは	講義
7 回 (松本)	2．症状とその病態生理 1）ショック、出血、帯下 2）疼痛、発熱、下腹部膨満、腫瘤感、排尿障害		15 回	5．自己免疫疾患 6．関節痛、レイノー現象、皮膚粘膜症状、蛋白尿 まとめ・終講試験	試験

評価方法	筆記試験　　100 点 （　①40 点　②25 点　③35 点　）	教科書	系統看護学講座　成人看護学 ［8］腎・泌尿器［9］女性生殖器 ［11］ｱﾚﾙｷﾞｰ膠原病感染症　（医学書院）

【　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
病態治療論Ⅴ	1	15 時間（8 回） ①　4 時間（2 回） ②　4 時間（2 回） ③　4 時間（2 回） ④　3 時間（2 回）	2 年次・前期	①　白鳥　隆宏（皮膚） ②　清水　智之（耳鼻咽喉） ③　早部　剛次（眼） ④　奥野　一吉（歯・口腔）

学習目標	1．系統別代表疾患の病態生理が理解できる 2．系統別代表疾患の診断・治療処置について理解できる
DPとの関連	□1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回 2回 （白鳥）	1．皮膚の構造と機能 2．症状とその病態生理 　1）発疹、続発疹、掻痒、皮膚の老化 3．検査と治療・処置 　1）皮膚科的検査法、病原微生物の検査法、病理組織 4．疾患の理解 　1）表在皮膚疾患 　2）真皮・皮下脂肪および皮膚付属器の疾患 　3）脈管系、物理・化学的 　4）腫瘍および色素異常症	講義 講義	5回 6回 （早部）	2）耳、鼻、口腔・咽喉頭疾患 1．眼の構造と機能 2．症状とその病態生理 3．検査と治療・処置 4．疾患の理解 　1）眼瞼、結膜、角膜疾患 　2）網膜、硝子体、白内障緑内障、視神経、外傷	講義 講義 講義
3回 4回 （清水）	1．耳鼻咽喉の構造と機能 2．耳、鼻、口腔・唾液腺・咽頭・喉頭に現れる症状と病態生理 3．主な検査と疾患の治療 　1）器具、聴力検査	講義 講義	7回 8回 （奥野）	1．歯・口腔の構造と機能 2．症状とその病態生理 3．検査と治療・処置 4．疾患の理解 　1）歯の異常と疾患 　2）口腔領域の炎症 　3）口腔粘膜の疾患 　4）歯と顎骨の外傷 　5）顎関節、咀嚼筋の疾患 まとめ（歯科のまとめ） 終講試験	試験

評価方法	筆記試験　100 点 （　①30 点　②30 点 ③30 点　④10 点　）	教科書	系統看護学講座　成人看護学 ［12］皮膚　［13］眼　［14］耳鼻咽喉 ［15］歯・口腔　（医学書院）

【　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
看護視点的病態関連	1	15 時間（8 回）	2 年次・後期	山﨑　美知子

学習目標	１．各発達段階の代表疾患を理解し、看護の視点を組み入れた病態関連図を学ぶ ２．看護過程で学んだ知識と関連付けて、今後に生かすことができる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	１．成人期	GW 演習			
2 回	１）糖尿病	GW 演習			
3 回	２．老年期	GW 演習			
4 回	１）大腿骨頸部骨折	GW 演習			
5 回	２）脳梗塞	GW 演習			
6 回	３．小児期	GW 演習			
	１）川崎病				
	４．在宅療養者				
	１）脳梗塞				
	５．精神疾患患者				
	１）統合失調症　等				
	（事例、疾患は G で選択調整する。調べる、読み解く、理解を深め、関連図に仕上げていく）				
7 回	ポスター発表	発表			
	ポスター発表				
8 回	課題説明				

評価方法	レポート評価　100 点	教科書	講師資料

【　専門基礎分野　健康支援と社会保障　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
公衆衛生学Ⅰ	1	30 時間（15 回）	1 年次・前期	谷　康平

学習目標	1．保健の考え方、保健活動の理念について理解できる 2．保健衛生、予防衛生の法規及び施策について理解し、生活者の健康について考えることができる
DPとの関連	□1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1．公衆衛生とは	講義		3．地域コミュニティを対象としたヘルスプロモーション活動	講義
2 回	2．健康の権利と社旗的公正	講義			
	3．情報公開と生命倫理		7 回	1．制度の動向	講義
3 回	1．環境とは	講義	8 回	2．社旗保証制度の改革	講義
4 回	1）生態系と環境	講義		3．医療制度な改革	
	2）自然環境		9 回	1．公衆衛生とグローバル化	講義
	3）社会的環境		10 回	1）自国の枠を超えて	講義
	4）身体的、精神、心理的影響			2）国際協力	
	2．生活環境の保全			3）リプロダクティブヘルスライツ	
	1）地球環境問題		11 回	1．健康つくりと地域	講義
	2）水、空気、土壌		12 回	2．地域保健とは	講義
	3）食品管理および家庭用品		13 回	3．地域保健の問題	講義
			14 回	1．母子保健	講義
	4）ごみ、廃棄物			2．成人保健、老人保健	講義
	5）住環境と健康			3．精神保健、難病保健	
5 回	1．疫学と健康指針	講義		4．感染症対策	
6 回	2．新しい健康概念の提案と健康づくりを支援する方法	講義		5．学校保健、産業保健	
				6．災害保健	
				7．健康危機管理	
			15 回	まとめ　終講試験	試験

評価方法	筆記試験　100 点	教科書	系統看護学講座　専門基礎分野 公衆衛生　（医学書院）

【　専門基礎分野　健康支援と社会保障　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
公衆衛生学Ⅱ	1	15 時間（8 回） 11 時間（6 回） 4 時間（2 回） （招聘講義）	2 年次・前期	前田　知美

学習目標	1．地域の状況を知り、岸和田市の保健事業の内容を知ることができる 2．地域に暮らす人々に起こりうる健康上の問題について理解できる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 □4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 ■7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回 （市役所） 2回 保健センター	1．地域について 1）人口動態、人口分布 2）地域の人々の特色 3）産業と生活の関連 4）地域で暮らす人々の健康上の特徴	講義	7回 8回	発表 課題説明	
3回 4回 （前田）	2．医療機関マップ作り 1）病院、老人保健施訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝ保健センター、診療所など	講義・GW			
5回 6回 （前田）	2．地域に暮らす人々の健康上の問題を考える 1）　乳幼児 2）　高齢者 3）　成人 4）　障害者	講義・GW 発表			
評価方法	レポート評価　100 点		教科書	系統看護学講座　専門基礎分野 公衆衛生　（医学書院）	

【　専門基礎分野　健康支援と社会保障　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
医療概論	1	30 時間（15 回）	1 年次・前期	横田　昌也

学習目標	1．医療システム、医療の歴史と動向、医療の理念について理解し、生活者の健康について考えることができる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1．医療を支える人々	講義	11 回	1．臓器移植の現状と課題	講義
2 回	2．保健医療サービスの提供の場	講義	12 回	2．ゲノム医学の登場 1）遺伝子の発見とヒトゲノム 2）遺伝子診断がもたらした光と影 3）胎児診断のジレンマ	講義
3 回		講義			
4 回	3．日本の医療保険制度 4．医療政策と医療計画 5．医療と経済 6．在宅ケアの推進 7．高齢者ケアシステム 8．救急医療の現状 9．災害医療 10．医療安全	講義	13 回	3．医療の国際化	講義
			14 回	4．補完代替医療から統合医療 5．患者中心の医療 6．医療サービスと医学診断 7．医療と診療記録 8．チーム医療の方法論 9．医療従事者と生命倫理 10．患者の権利 11．個人情報保護 12．ターミナルケアの問題	講義
5 回	1．健康の決定因子とヘルスプロモーション	講義			
6 回		講義			
7 回	2．ヘルスプロモーションの科学	講義			
8 回		講義			
	3．老人として生きる 4．精神を病むということ 5．障がい者施策 6．ノーマライゼーション				
9 回 10 回	【校外学習】 「華岡青洲の里」	校外見学	15 回	まとめ　終講試験	講義・試験

評価方法	レポート評価　100 点	教科書	学生のための医療概論（医学書院）

【　専門基礎分野　健康支援と社会保障　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
社会福祉Ⅰ	1	15 時間（8 回） ①　5 時間（3 回） ②　8 時間（4 回）	1 年次・後期	①　咲花　彩 ②　澤近　敦子

学習目標	1．社会福祉の理念、福祉関係の法規と年金保険制度について理解することができる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 □4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 （咲花）	1．社会保障制度 1）社会保障の目的、機能、体形、内容	講義	6 回 （澤近）	6．介護保障 1）介護保障の歴史 2）介護保障制度の概要 3）介護保険制度の課題と展望	講義
2 回 （咲花）	2．社会福祉の法制度 1）社会福祉サービスの内容とサービス提供の仕組み	講義	7 回 （澤近）	7．所得保障 1）所得補償制度の仕組み 2）年金保障制度 3）社会手当 4）労働保険制度 8．公的扶助 1）貧困・低所得問題と公的扶助制度 2）生活保護制度の仕組み 3）低所得者対策	講義
3 回 （咲花）	3．現代社会の変化 1）人口、地域社会 2）家族、個人 3）経済状況、雇用状況 4．社会保障、社会福祉の動向 1）社会保障制度、保健医療の動向	講義			
4 回 （澤近） 5 回 （澤近）	5．医療保障 1）医療保障制度 2）健康保険と国民健康保険 3）高齢者医療制度 4）保険診療の仕組み	講義 講義	8 回	終講試験	試験

評価方法	筆記試験　100 点 （　①30 点　②70 点　）	教科書	系統看護学講座　専門基礎分野 社会保障・社会福祉　（医学書院）

【　専門基礎分野　健康支援と社会保障　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
社会福祉Ⅱ	1	15 時間（7 回）	2 年次・後期	澤近　敦子

学習目標	1．社会福祉の現状と課題について理解し、それぞれの分野に応じたサービス内容について考えることができる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1．高齢者福祉 1）高齢者の状況 2）高齢者福祉の施策 3）老人保健事業	講義	6 回	4．社会福祉実践と医療・看護 1）社会福祉援助とは 2）個人援助技術 3）集団援助技術 4）間接援助技術と関連援助技術	講義
2 回	2．障害者福祉	講義			
3 回	1）障害者の定義と実態 2）障害者福祉の理念 3）障害者福祉制度の変遷 4）新たな法体系の整備 5）障害者福祉の関連施策	講義	7 回	5）社会福祉援助の検討課題 6）連携の場面とその方法	講義
4 回	3．児童福祉	講義	8 回	終講試験	試験
5 回	1）児童と育ちの環境としての家庭生活の現状 2）児童にかかわる法と施策 ①母子保健法 3）少子化対策と子育て支援 4）児童虐待対策 5）子どもの人権と貧困対策	講義			

評価方法	筆記試験　　100 点	教科書	系統看護学講座　専門基礎分野 社会保障・社会福祉　（医学書院）

【　専門基礎分野　健康支援と社会保障　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
関係法規	1	30 時間（15 回） ①　18 時間（9 回） ②　10 時間（5 回）	1 年次・後期	①　吉野　眞美 ②　佐藤　裕幸

学習目標	1．法規の概念を理解し、看護活動に関する法規の種類・概要について理解する 2．医療過誤における看護師の責任について事例を通して考えることができる 3．看護者として、法的責任について考えることができる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 □4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身につけた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 （吉野）	1．法の概念 2．法に分類 3．衛生法 4．厚生行政の仕組み	講義	6 回 （吉野） 7 回 8 回 （吉野）	1．環境衛生法の営業 2．環境整備 1．社会保険法、年金、手当 1．福祉法 2．児童分野 3．老年分野 4．障害分野	講義 講義 講義
2 回 （吉野）	1．保健師助産師看護師法 2．看護師などの人材確保の促進に関する法律	講義			
3 回 （吉野）	1．医師法・医療法 2．医療関係資格法 3．保健医療福祉資格法 4．医療を支える法 5．人の死に関する法 6．緊急時の医療に関する法	講義	9 回 （吉野） 10 回 11 回 12 回 13 回 14 回 （佐藤）	1．労働法、労働基準法 2．社会基盤整備 1．環境保全の基本法 2．公害防止法 3．自然保護法 1．日常生活と法律との関わり 2．看護師の法的責任 3．診療の補助に関する医療事故と療養上の世話に関する医療事故との違い	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
4 回 （吉野）	1．保健衛生法 2．分類別保健法 3．感染症に関する法 4．食品に関する法	講義			
5 回 （吉野）	1．薬事一般に関する法 2．薬害被害者の救済法 3．麻薬・毒物法等	講義			
			15 回	4．医療ミスの原因 まとめ　　終講試験	講義・試験

評価方法	筆記試験　　100 点 （　①70 点　②30 点　）	教科書	ﾅｰｼﾝｸﾞｸﾞﾗﾌｨｶ　健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度　（ﾒﾃﾞｨｶ出版）